

いきいき協働事業評価シート

団体用(NPO法人 こども未来ラボ)

○ 協働事業の概要

記入年月日 平成31年3月28日

事業名	ペアレントプログラム及びペアレントメンター実施事業
団体名	NPO法人 こども未来ラボ
担当課名	障がい者支援課
事業期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日

いきいき協働事業の自己評価について、ご記入ください。

1 地域の課題が解決されましたか。(計画時に設定した課題がどの程度解決されましたか。対象者がどう変わりましたか。)

成長していく子どもとの関係性の中で、「その子の持つ困難さを理解し、支援していく」という課題は継続をしていく過程で、そしていろいろな人たちを巻き込み繋がる事で少しずつ現在の地域での課題が解決されていくと考えられる。

課題解決のための素地を作る事(ペアレントプログラム/メンター活動を中心とした家族支援を継続して行うこと)は「なぜこの子はこんなに困った行動をとるのか?」の「なぜ?」の原因を、プログラムを通じて知る事につながる。

その子の行動の理由が理解でき、叱責の回数が減り、褒める回数が増え、家族と子どもの良いコミュニケーションが増えることは親子の関係性をより良いものにしていく。

参加の保護者、支援者はペアレントプログラムを通じて今までの「育児、子どもとの関わり」の困難さからの不安が減少し、前向きな子育てを積極的に取り組めるようになっていった。

プログラムを通じてお母さん同士の繋がりもできた。「親カフェふらっと with メンター」を通じてお互いの子育ての困難さを共有し、共感性や地域の情報を知る事で子育てに前向きになっていくお母さんが増えた。

②団体の長所を、発揮させることが出来ましたか。(市民の共感を引き出し、行政や企業では出来ない良質な成果が得られましたか。市・団体が単独で実施するより効果的・効率的に事業展開ができましたか。)

行政の広報力とこども未来ラボの発達障がいに関する専門性の高さが地域での家族支援の素地を作る大きな啓発となった。

③協働の姿勢が図られましたか。(互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方など相互理解が図られたか。対等関係を維持するために適切な協議や意見交換の機会を設けましたか。相手方と十分な情報の共有が図られましたか。)

報告、連絡、相談が頻繁に行われ、プログラム全体に良い効果が見られた。

④改善提案がありますか。

ペアレントプログラムの定着について回数や設定曜日、時間帯について、ニーズに合わせた工夫も必要となってくると感じた。また、地域全体での「子育て」を考えると「発達障害がある/なし」に関わらず、子育て中の保護者の方たちにも気軽に参加できるようなペアレントプログラムの工夫が今後は必要とされていくと感じた。

自由記載欄

障がい者支援課からのアドバイスはこの事業が地域でいかに必要であるか、たくさんの困りごとを抱えた保護者にその支援が届くような配慮に繋がっていった。支援課と協働で事業を行えたことにとても感謝をし、たいへん学ぶ事の多き1年となった。芋生